

# ウラジオストク市の概況

## 1. 人 口

591,000人(2002年国勢調査)

[函館市:305,311人(2000年国勢調査)]

## 2. 位 置

ロシア連邦極東地域沿海地方の主都

北緯 43°05' (函館市:北緯 41°46')

東経 131°55' (函館市:東経140°44')

時差:日本より1時間早い(夏時間は2時間早い)

\* ロシアの夏時間は

3月最終日曜日から10月最終日曜日まで

## 3. 交通手段

新潟空港～ウラジオストク空港 所要時間 約1時間30分

富山空港～ウラジオストク空港 所要時間 約2時間30分

関西空港(夏期のみ)～ウラジオストク空港 所要時間 約2時間

北九州空港(夏期のみ)～ウラジオストク空港 所要時間 約2時間

(函館空港からウラジオストク空港間の直行便による所要時間は約2時間)

## 4. 面 積

約563km<sup>2</sup>(函館市:677.87km<sup>2</sup>)

## 5. 気 候

大陸性モンスーン型気候で、冬は寒冷な内陸の影響から気温が低く乾燥した晴天が続く。夏は海洋からの影響を受け、曇りの日が多い。

○ 年平均気温 4°C (函館市:9.2°C) ※函館 2005年

・ 1月の平均 -13.4°C (函館市:-2.0°C)

・ 8月の平均 19.5°C (函館市:23.6°C)

○ 年間降水量 834mm (函館市:1148.0mm)

## 6. 沿革

1860年北京条約により清国から帝政ロシアの領土に編入された。市の名称はニコライ一世の命名によるもので「東方を征服せよ」の意味合いをもっており、当時のロシアが東方へ進出しようという夢を託したものであった。

明治初頭から邦人が居留し、1925年には日本領事館も置かれた。（1993年からは日本国総領事館が設置されている。）

日露戦争前には、商業等を営む日本人が最大で5,000人を数えた。

第二次大戦後に急成長した都市で、1939年に20万人だった人口が1959年には29万人、1970年には40万人となり、1985年に60万人を突破し、1970年からはハバロフスク市を上回り現在に至っている。

社会主義革命後、帝政ロシア時代の都市名の多くが改名される中で、太平洋への戦略拠点としての位置づけからそのまま使用されてきた。

第二次世界大戦後の東西冷戦下、ソ連太平洋艦隊本部の基地を有する「閉鎖都市」として長く閉ざされ、その実情は深くベールに包まれてきたが、1989年にソ連市民に、1992年には外国人に開放され、現在はアジア太平洋地域との交流が非常に活発化しており、国際的に注目されている。

## 7. 主な特徴

### (1) 交通

シベリア鉄道の終着駅であり、極東第一の港湾を有しているほか、近くには空港もあり、陸海空の交通の要衝となっている。

鉄道はハバロフスクやモスクワ方面への幹線のほか、ナホトカやポシエツトなどへの支線の基点となっており、貨物と旅客輸送の大動脈となっている。

港湾は天然の良港で水深も大きい金角湾があり、軍港のほか北極海、カムチャツカ方面への物資の移出入や近隣都市への旅客輸送、さらには漁業基地でもあることから、漁港としても利用されている。

空港はウラジオストク市から35kmにあり、日本、中国（北京・ハルビン）、韓国（ソウル・釜山）、ベトナム（ハノイ）、タイ（バンコク）や、モスクワ、サンクトペテルブルグ、ハバロフスク、ユジノサハリンスク、イルクーツク、ヤクーツク、カムチャツカ、マガダン、ノボシビルスク、エカチェリンスク、ソチなどの国内の主要都市と航空路で結ばれている。

## (2) 産 業

水産業、鉱業、食品加工業、林業、木材加工業、陶器製造業が盛んである。

## (3) 教育・文化・スポーツ

教育 …………… 極東国立総合大学，極東国立工科大学，ウラジオストク国立経済・サービス大学，極東国立海洋アカデミーなど多くの高等教育機関やロシア科学アカデミー極東支部，太平洋漁業海洋研究所などの研究機関が設置され，ロシア極東地域の教育の中核となっている。

文化 …………… ゴーリキー・ドラマ劇場，アルセニエフ博物館，常設サーカスなどがあり，活発な文化活動が行われている。

スポーツ …… 1988年のソウルオリンピックを契機として，総合競技場「オリンピースキー」，「ディナモ」が建設されたほか，既存のスタジアムや漕艇場も整備されスポーツの振興が図られている。

## (4) 姉妹・友好都市

- ・新潟市（日本）1991.2.28
- ・大連市（中国）
- ・上海市（中国）
- ・秋田市（日本）1992.6.29
- ・煙台市（中国）
- ・長春市（中国）
- ・函館市（日本）1992.7.28
- ・釜山市（韓国）
- ・サンディエゴ市（米国）
- ・タコマ市（米国）
- ・ジュノー市（米国）
- ・ハイフォン市（ベトナム）

## (5) その他

金角湾 …………… 奥行き7kmで軍港，商港，漁港として利用されている。1992年1月に開放され，外国船の出入りが自由となった。

沿海地方行政庁舎 …………… 市内一の高層ビルで沿海地方の政治の中心施設。

ウラジオストク駅 …………… クリーム色に装ったロシア風の駅舎でシベリア鉄道の終着駅，モスクワのヤロスラヴリ駅に似た駅舎である。

帝政時代の建物 …………… 「アルセニエフ博物館」，「中央郵便局」や「 Gum百貨店」などの石造りの重厚な建物が残されている。

- アルセニエフ博物館 …………… 沿海地方の地理，生物，歴史などのほか，シベリア鉄道の資料や動物のはく製なども展示されている。  
2002年7月28日，市立函館博物館と姉妹博物館提携を結び，博物館交流を進めている。
- 潜水艦博物館 …………… 第二次世界大戦に使用した潜水艦を利用，当時の写真や記念品なども展示している。
- 鷹の巣展望台 …………… 東洋のサンフランシスコと呼ばれ，市内および金角湾を望む展望台。
- 極東国立総合大学 …………… ロシア極東で最初に設置された大学で，東洋学部日本語学科の卒業生は現在日本関連の各業種で活躍中である。